

緩和ケアセンターが始動

増えるニーズに対応し組織強化



診断時から多職種でサポート



緩和ケアセンターのスタッフ



昨年10月、入院棟で開かれた緩和ケア啓発イベント
「チームで支える緩和医療～多職種で患者・家族を支えます～」

緩和ケアセンター始動

患者・家族の希望に寄り添う

広島大学病院緩和ケアセンターは2020年4月、がん治療センター緩和ケア部門から衣替えし、体制を整えました。患者さんのさまざまな苦痛への対応は、早い段階からの必要性が強調されており年々ニーズが高まっています。さらに、がんだけでなく他の疾患も対象となってきています。

岡本泰昌緩和ケアセンター長のごあいさつ

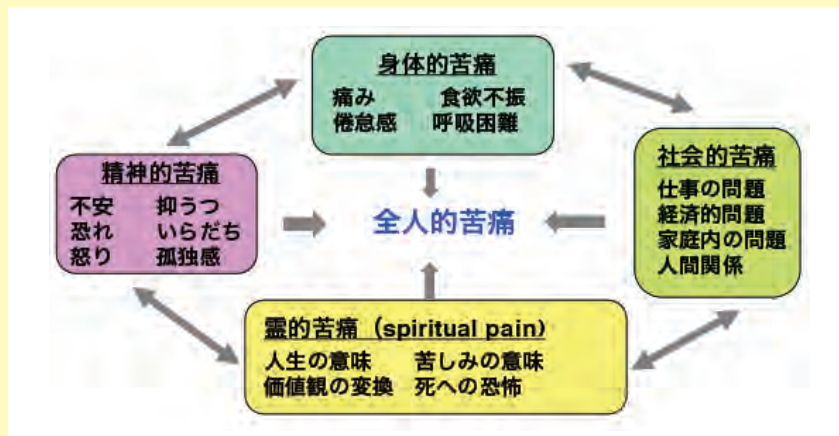
「医療とは患者固有の人生の歩みと医療者の専門的職業人としての歩みの交差するところで営まれる行為である。という考え方が大切です。したがって、医療者は患者の人生と生活の全体像をしっかりとらえたうえで、治療方針を立てることを要請される。とりわけ死にゆく人とかかわりにおいては、患者の内面にあるものを汲み取り、その人生の歩みを、崩壊でなく完成へと支援する取り組みこそが重要となってくる」。

これは1996年にでた柳田邦男著の『「死の医学」への日記』の一節です。この時代と比べて、医療の進展に伴い、緩和ケアも大きく、幅広く変わってきました。がんの終末期医療から、診断、告知、再発、あらゆる段階でのがん緩和ケア、さらに最近ではがんだけでなく生命に関わる循環器、呼吸器、神経難病などの様々な疾患にも緩和ケアの適用が求められてきています。緩和医療をとりまく期待はますます大きくなり、守備範囲は広がっていますが、緩和ケアに宿る精神は今も昔もなんら変わっていないかと思います。緩和ケアセンターのメンバーと協力して、「人の歩み」を支援するセンターを目指していきたいと思っています。

倉田明子副センター長に緩和ケアの現状などを解説してもらいました

○早期からの緩和ケアとは

世界保健機関(WHO)は、「緩和ケアとは、生命を脅かす病気をもつ患者さんとそのご家族の、身体的、心理社会的、スピリチュアルな苦痛を早期から緩和することにより、Quality of Life(QOL:生活の質)を改善すること」と定義し、患者の生活を含めた全人的な苦痛に対応するとしています。近年は「早期からの緩和ケア」をキーワードに、亡くなる直前ではなく、がんなどの診断時から緩和ケアを行うことが推奨されています。早期からの緩和ケアにより、患者さんのQOLや精神的な健康度が高まるという報告もあります。

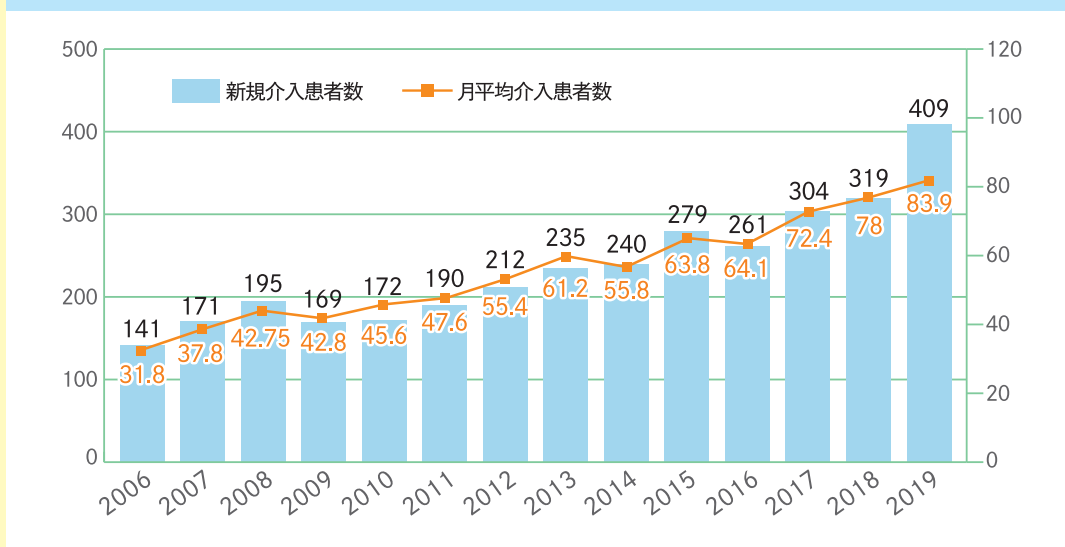


◎ 当院緩和ケアセンターが行っている診療について

当院に入院・通院されているがん・白血病の患者さんと、一部の心不全の患者さんが対象です。緩和ケアセンターでは、痛みや吐き気、息苦しさ、だるさといった身体の症状、不安、落ち込み、苛立ち、不眠といった精神・心理的な症状、療養環境の問題や経済的な問題、就労に関する悩みといった社会的問題などについて、詳しい問診の上で、薬の調整やカウンセリング、他部門との連携を行い対応します。幅広く対処するために、緩和ケアセンターのメンバーは医師、看護師、薬剤師、理学・作業療法士、栄養士、歯科衛生士など多職種で構成されています。

入院では緩和ケアチームが各病棟に往診して診察を行います。外来では、身体症状、精神症状に麻酔科医、精神科医が対応するほか、看護師によるがん看護外来で治療の意思決定のサポートも行っています。また、患者さんが亡くなられた後のご遺族のケアも行っています。

広島大学病院緩和ケアチーム年間診療実績



◎ 院内外で幅広く周知と連携

緩和ケアセンター主催の緩和ケア研修会にがんや心不全に従事する医療者が参加して知識を習得し、院内に広く基本的な緩和ケアを提供しています。また、当院心不全センターとカンファレンスや回診を通して連携し、心不全の緩和ケアにも力を入れています。

近年、最後まで患者さんの希望に沿った医療・ケアを提供するためにアドバンス・ケア・プランニング(ACP)が推奨されています。これは、さほど病状が進行していない時期から、患者さんのこれまでの生活や価値観(大切にしたいこと)を患者さん、ご家族、医療者で共有し、先々の療養や過ごし方について話し合っておくことです。当院では緩和ケアセンターのメンバーが、病状への説明に同席し、主治医や病棟・外来看護師などと連携してACPを推進しています。



昨年開いた在宅緩和ケア事業研修会

また当院緩和ケアセンターでは「緩和ケア研修会」「緩和ケアフォローアップ研修会」「在宅緩和ケア事業研修会」といった研修会を院内外の緩和医療従事者に向けて開催し、緩和ケアの普及と質の向上を目指しています。また、県内の緩和ケア病棟や、在宅緩和ケアを行うクリニックや訪問看護ステーション、保険薬局とも症例検討やカンファレンスを通して連携し、切れ目ない緩和ケアの提供体制の構築に尽力しています。

ニュースアップ

サンフレ監督・選手が医療従事者にエール

J1サンフレッチェ広島監督・選手が5月13日、広島大学病院を訪れ、新型コロナウイルス感染症拡大で奮闘する医療従事者や患者らを激励していただきました。

訪れたのは城福浩監督、青山敏弘選手、佐々木翔選手、川辺駿選手、荒木隼人選手、大迫敬介選手の6人です。入院棟南のいこいの森と診療棟屋上の庭園で「ありがとうございます SANFRECCE」の横断幕の前に、横一列に並んで大きく手を振りました。入院棟からは窓に集まった医療従事者からも笑顔で手を振り返っていました。



城福監督は「最前線で苦勞されている医療従事者の方に直接敬意とエールを送れ、特別な経験になりました」、佐々木選手は「感謝の気持ちを伝え、少しでも元気を与えられたらうれしい」と思いを伝えました。

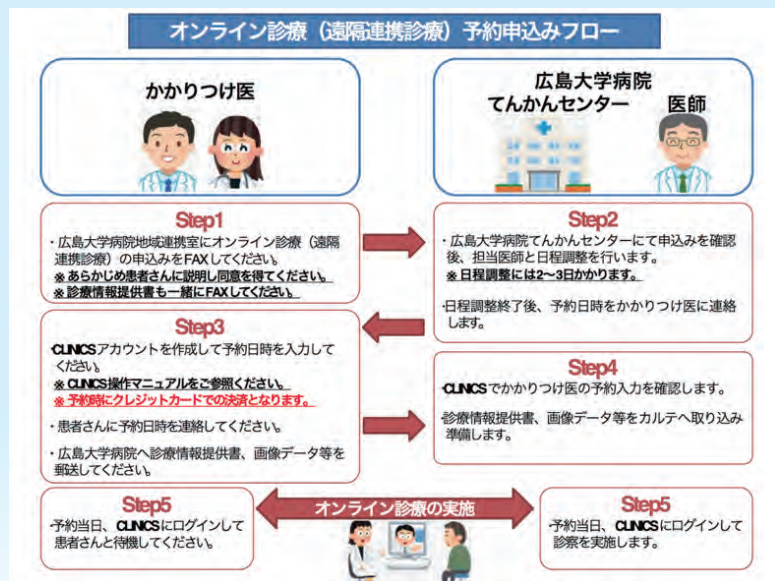
クラブからはサイン入りユニホームとマスクも寄贈いただき、木内良明病院長は「感染者は少しずつ減っていますが、さらに気を引き締めていきます。今回のエールは職員の励みになり、終息まで社会全体で頑張ろうというメッセージにもなったと思います」と感謝しました。

サンフレッチェ広島と広島大学病院は医療支援協定を結び、選手の健康管理に一役買うほか、てんかんセンターの啓発活動ではコラボして後押ししていただくなどこれまでも協力関係を続けています。

てんかんセンターがオンライン診療を開始

広島大学病院てんかんセンターが6月1日からオンライン診療を開始しました。てんかんは初期診断が難しい疾患であると言われていますが、専門医は少なく地域偏在も問題になっています。広島県からてんかん診療拠点病院の指定を受けている本院の専門医が遠隔地の患者・かかりつけ医とオンライン対応することで、適切な初期診断を提供できることになります。2020年4月の診療報酬改定において、「遠隔連携診療料」が新設され、てんかんと難病を対象に情報機器を使った診療が保険適用の対象となったことから、オンライン診療システム「CLINICS」を利用し

て実施します。同時にオンラインでのセカンドオピニオンも導入しました。



栄養管理部
情報

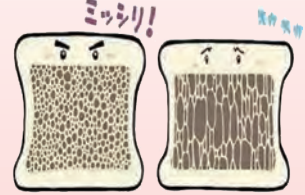
骨密度

について



担当した管理栄養士

みなさんは、骨密度という言葉を知っていますか。骨密度とは、骨の強度を表す指標で、骨の中にカルシウムやマグネシウムなどのミネラルがどの程度詰まっているかを数値化したものです。骨密度が低下してしまうと、骨がもろくなり骨折しやすくなったり、骨粗しょう症のリスクも高くなります。



◆◆◆ 骨がもろくなる原因 ◆◆◆

- カルシウムやビタミンDの不足
- 飲酒や喫煙
- 加齢に伴うホルモンバランスの乱れ
- 過度なダイエット



◆◆◆ 丈夫な骨を作るために ◆◆◆

- 適切な栄養を摂取する
- 適度な運動
- 日光を浴びる
- 禁煙をする



食べ物で元気な骨を作ろう!

● カルシウムを多く含む食品

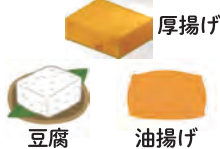
①牛乳・乳製品



牛乳

チーズ

②大豆製品



豆腐

厚揚げ

油揚げ

③小魚類



ししゃも

桜エビ

④野菜類



小松菜

大根葉

カルシウムの吸収率は食品によって異なり、牛乳約40%、大豆製品約20%、小魚類約33%、野菜類約19%となっています。牛乳の吸収率が一番高いため、毎日の食事に取り入れてみてはいかがでしょうか?

● ビタミンDを多く含む食品



干しシタケ

鮭

いわし



ビタミンDはカルシウムの吸収を高めたり、血液中のカルシウム濃度を一定に保つなど、骨の健康を保つ働きをしています。

カルシウムたっぷりレシピ

厚揚げと小松菜の豚キムチ



エネルギー:249kcal たんぱく質:23.8g
カルシウム:440mg 塩分:1.5g

〈材料〉

1人分

- 厚揚げ …………… 50g
- 豚小間切れ肉 …… 50g
- 小松菜 …………… 100g
- 玉ねぎ …………… 1/8個
- キムチ …………… 40g
- チーズ …………… 20g

〈作り方〉

- ① 厚揚げはさっと湯にかける
- ② 厚揚げ、小松菜、玉ねぎ、チーズを一口サイズに切る
- ③ フライパンに油を入れ、豚肉を炒める
- ④ 玉ねぎ、キムチ、小松菜を順に入れ炒め、火が通ったら厚揚げを入れる
- ⑤ チーズを加えてさらに炒める



病院で働く人に ズームイン!

FILE 09 看護師・治験コーディネーター (CRC)

うえだ あさみ
上田亜沙美 (27歳)



今のお仕事を教えてください

新型コロナウイルス感染症で話題に上がるアビガンやレムデシビルのように、医薬品の承認申請のために必要なデータをそろえる試験である「治験」に携わっています。医師、製薬会社、他職種の医療者と患者さんの間に立ち、病院内で治験が安全かつスムーズに進むようサポートしていくことが治験コーディネーターの役割です。

めとする医療従事者、医事課、製薬会社、など多職種の方とコミュニケーションを取りながら一つの研究を進めていくことは難しいのですが、魅力でもあります。

今後の抱負は

今年1月から働き始めたばかりなので、いろいろな診療科の治験を担当させてもらい、勉強していきたいです。もともと興味のある小児科をはじめ、多くの分野で活躍できるコーディネーターを目指していきたいと思っています。

CRCを目指したきっかけは

別の大学病院で看護師をしていましたが、転居が契機になりました。常々、最新の医療に携わってみたいと思っていました。その時、治験部門の募集があり、看護職として直接ではありませんが、治験の現場は見ていたので研究部門に興味がわき飛び込みました。



やりがいはどこなところですか

治験に参加する患者さんの日常生活への影響を常に考え、患者さんの立場にたったサポートができるよう心がけています。医師に言いにくい体調面での相談なども受け、頼りにしてもらっていると実感するときはやりがいを感じます。また、医師や看護師、薬剤師をはじめ

催しのご案内 (2020年7月~9月)

※新型コロナウイルス感染症の感染状況などで、中止となる可能性があります。

がん治療を支える 患者サロン

- がん治療を支える— **がん薬物治療と生活について**
7月15日(水) 13:30~14:30
会場：臨床管理棟3階 3F4会議室
講師：がん化学療法看護認定看護師 清本美由紀
- がん治療を支える— **がん療養と食事について**
8月20日(木) 13:30~14:30
会場：臨床管理棟3階 3F2会議室
講師：管理栄養士 天野加奈子
- がん治療を支える— **リンパ浮腫の予防とケア**
9月17日(木) 13:30~14:30
会場：臨床管理棟3階 3F4会議室
講師：がん看護専門看護師 山口真由美

患者・家族が同じ目線で がん患者おしゃべり会

- 7月28日(火) 13:30~14:30
- 8月25日(火) 13:30~14:30
- 9月29日(火) 13:30~14:30
会場：診療棟2階 健康情報プラザ

いずれも問い合わせは：
がん相談支援センター ☎082-257-1525